

令和5年度 自己評価書（最終報告）

2024. 3. 14 高水高等学校・同附属中学校

1. 建学の精神「徳性の陶冶」 — 教育による人格の錬成 —

2. 教育方針 — 3つの校訓による方針 —

- (1) 徳育を重んじ師弟親愛による全人教育
人格の錬成に重点をおく。そのためには、教師と生徒との精神的親和が大切で、教師は常に熱意と誠意をもって生徒を導かなくてはならない。
- (2) 堅実で明朗な人物の育成
青年は快活、明朗さが生命である。豊かな教養を培い、堅実で伸び伸びとした青年でなくてはならない。
- (3) 勤労を重んじ実践力に富む人物の育成
勤労を尊び、事に当たって率先、かつ積極的でなくてはならない。この習慣を養うことが将来自己を幸福にし、社会国家にも役立つことになるのである。

3. 教育目標 — 学力・生活・進路について —

- (1) 現状を把握・分析して問題を発見し、それを課題として整理し解決していく学力を養成する。
- (2) 人と人の気持ちを大切に、持続可能な多様性社会を志向していける人間性を育成する。
- (3) 個々の適性や能力に応じながら得意なことや好きなことを活かせる進路を実現する。

4. 令和5年度の重点目標と方策

- (1) 生徒全員の進級・卒業を目指す。
きめ細かい配慮と支援を行い、生徒に寄り添う姿勢を重視する。また、生徒が主体的に授業に取り組めるよう「わかる」「できる」「生かせる」授業を展開する。
- (2) 英語教育の充実
英語の授業でティームティーチングを導入すると共に、カナダとオーストラリアの姉妹校交流や、台湾建成國民中学校との友好交流などの国際コミュニケーションの機会を活用し、英語教育の充実を図る。
- (3) 生徒の自主性を高める。
ホームルーム、生徒会、学校行事などの特別活動や部活動、その他の校内での活動において生徒の自主性を尊重し、生徒自らが意欲的に取り組み、経験値を確実に高められるよう工夫する。また、校外のボランティア活動等についての情報提供も積極的に行う。

5. 前年度の成果と課題

【成果】	<ol style="list-style-type: none"> 1. 六年制普通科では「総合的な探究の時間」における異学年協働学習の取り組みにより、問題発見、課題解決力が増してきており、中六合同発表会の内容にも反映されている。 2. 附属中と六年制普通科1年生のクロムブック購入・所持により、授業等における協働学習の本格的な取り組みが進んだ。 3. 懸案事項であったペップトーク研修の実現により、「前向きな背中を押す言葉かけ」を意識した言動や状況判断力の向上が見受けられる。 4. 普通科における進路研修や特別活動の充実により、明るく生き生きと活動する生徒が増えてきた。 5. 高校課程では、スタディサプリを活用した個別学習が本格化した。 6. 附属中と友好交流の意向書を交換した台湾の建成國民中との書道展を開催。また、姉妹校との国際交流や交換留学再開に向けて動き始めた。 7. 附属中と岩国基地ミドルスクールとの交流が実現し、生徒の経験値を高めることができた。 8. 感染症対策を行いながらではあるが、学校行事がほぼ予定通り実施できた。中2「サマーセミナー」を中止せざるを得なかったのが残念である。 9. 附属中の授業時間数確保に努めたことにより、ゆとりを持って授業を進めることができた。基礎学力の定着に繋げることができたと感じている。 10. 朝の校外巡視や休み時間の教室巡回などで生徒に声をかけたり、状態を把握したりすることにより、迅速な対応に繋げることができた。
【課題】	<ol style="list-style-type: none"> 1. 特別活動や探究学習に対する教員間の共通理解と研修が不十分である。 2. 起立性調節障害や支援を要する生徒等、個に対応した指導（生活指導、学習指導等）と対策が急務である。 3. 学校と地域との連携・協働をさらに進める必要がある。 4. 本校の特色、魅力の再確認と、そのアピール方法の検討など、スピード感を持って学校活性化を図る必要がある。 5. 校舎と校内の施設・設備の老朽化が目立ち始めている。 6. 校内支援システムが構築できていない。校務を効率よく行うことで、時間の有効活用、働き方改革を進めたい。 7. ここ数年で新しい校務が増えたため、効率的な学校運営に向けて役割分担を見直したい。 8. 広報活動を意識した1年であったが、課題山積の状態である。さらに活発化したい。 9. 保護者アンケートに「わからない」の項目を新設した結果、附属中の回答に多く見られた。保護者進路説明会等へのご案内を徹底するなど改善を急ぎたい。

6. 各学年の達成目標と目標達成の方策 ※達成度 4 : 8割以上、3 : 6割以上、2 : 4割以上、1 : 4割未満

	達成目標	目標達成の方策	達成状況	達成度
中一	1. 基本的な生活習慣の確立 中1 : けじめ・思いやりのある態度で友だちに接する。 中2 : 友だちを理解し、協力して物事を成し遂げる。 中3 : 何事にも自主性・積極性を持って取り組む。	1. ①ホームルーム活動と授業を通じてマナー（挨拶、身だしなみ、態度、言葉遣い）指導を徹底する。 ②全教員が後片付け、掃除、整理整頓について同じ目線で指導できるようにする。 2. ①英語と数学は毎日宿題を課し、家庭学習の習慣を身につけさせる。 ②自学自習の習慣を身につけさせる。 ③生活実態調査等によって学習習慣状況を把握し個別指導に役立てる。 ④個人指導を重視する。	1. 授業やホームルームを通して、ケジメある態度を身に付けるよう指導したため、他者を思いやる行動が取れるようになってきた。 2. 英語の学習を中心に多くの生徒が前向きに取り組んだ。 3. 偏差値52以上の生徒は2割。これからの努力を必要とする。	3
中二	2. 1日2時間の自学自習（毎日欠かさず、コツコツと） 3. 学力推移偏差値52以上 学年受験生の5割を目指す。	3. ①成績上位層に対する課題や補習を工夫する。 ②成績下位者に対する早朝・放課後の指導を行う。	1. サマーセミナーを通して協力する姿勢が見られた。友だちのことを意識した言葉遣いや行動ができるようになった。 2. 宿題など一生懸命取り組む生徒は学習時間が増えてきているが、全体的にはまだまだである。 3. 達成できていない。9月の学力推移では偏差値52以上の生徒は3名（16名中）である。	3
中三			1. 掃除分担の割り当てのない生徒が手伝うようになってきた。号令の挨拶はまだ小さい。 2. 宿題の提出状況は全体的に良好である。 3. 偏差値52以上の生徒は4割。	3
六一	1. コミュニケーション能力、プレゼンテーション能力を身につける。 2. 得意教科をつくり文理選択に活かす。 3. 1日3時間自学自習 進研記述模試の偏差値57以上 学年受験生の5割を目指す。	1. 総合的な探究の時間・LHRを中心に楽学祭、中六合同発表会を通じて能力向上の機会を提供する。 2. キャリア教育を充実させ、進路研修と個別指導を併用する。 3. 学習意欲の高い生徒および成績上位者への指導を強化する。	1・2. 成果はあがってきている。 3. 達成者は5名（31名中）である。課題配信等を行い、学力の向上に努めさせたい。	3
六二	1. マネージメント能力、チームワーク能力を身につける。 2. 学部学科選択を意識し得意教科を2教科つくる。 3. 1日4時間自学自習 進研記述模試の偏差値57以上 学年受験生の5割を目指す。	1. 総合的な探究の時間や合同発表会、楽学祭などの行事でリーダーを務めさせ、会の進行や運営の経験を通じて能力向上の機会を提供する。 2. 大学オープンスクールへの参加を促したり、定期的な個別指導を通して指導をおこなう。 3. ウィンターセミナーによって受験体制への移行を意識化させる。	1. 総合的な探究の時間や楽学祭で力を発揮した。 2. 進路探究を進め、進学への意識を向上させた。 3. 自学の時間や偏差値に関しては中位から下位層の状況を改善することが喫緊の課題である。	3
六三	1. 自己管理能力を身につけ、第一志望大学合格を達成する。 2. 個に応じた対策を徹底する。 3. 1日5時間自学自習 進研記述模試の偏差値50以上 学年受験生の7割を目指す。	1. 朝の時間や放課後を有効に活用し、受験に必要な力を身に付ける。保護者説明会等を活用し、保護者の理解を得た上で、受験勉強を通じた能力向上を意識化させる。 2. 個人面談の充実を図り、生徒一人ひとりに合った進路選択を進める。 3. 学年のムードづくりを心がけ、学年全員で受験に向かう姿勢をつくる。	1. 保護者会では、保護者を交えて志望校を決定した。 2. 学校推薦型や総合選抜型とそれぞれの試験方式で受験し、合格させることができた。 3. 志望校合格に向け、落ち着いた雰囲気の中で勉強に取り組むことができた。	3

	達成目標	目標達成の方策	達成状況	到達度
普一	基本的な生活習慣の確立	5分前行動（時間を守る） 1. 8：15 13：05 着席指導 2. 昼休みの教室巡視指導 3. あいさつ、身だしなみの指導	5分前行動をできる生徒が増えてきた。来年度に向けて、小さいことを見逃さず声掛けをするように努めた。	3
普二	進路決定を早期に行い、実現に向けて努力する。 1. スタディサプリを活用する。 2. 身だしなみ、5分前行動等、マナーを意識する。 3. オープンキャンパスに積極的に参加する。	1. 総合的な探究の時間を活用し、スタディサプリ「課題発見型探究」を実施する。 2. 校内巡回時に積極的に声をかけ、5分前行動や身だしなみについて意識させる。 3. 参加するよう面談等で声かけを行う。	スタディサプリの課題発見型探究・テストを活用した。また、アプリを使い大学・短大・専門学校の間比較も行ったので、オープンキャンパスへの参加希望者が増えると思われる。	4
普三	1. 希望進路の実現 2. 社会人として必要な知識・マナーを身に付ける。 3. 受験（進学・就職のための）学力の修得	1. 担任や副担任・進路指導部の先生方等と個別面談を行い、より適切な進路を模索させる。 2. 就職ガイダンスへの参加、応募前職場見学を通じて、社会の一員となる心構えを持たせる。 3. 日常の家庭学習を充実させることにより、個々が必要とする学力の向上を目指す。	1. ほぼ進路は確定したが、進学において一般型選抜、就職の2次募集に挑戦する生徒が若干名いる。 2. HRを用いて、各種講演会を実施した。（全6講座） 3. 学校推薦型選抜合格者を中心に、学習計画に沿って継続的に学習に取り組ませた。	4

7. 各教科の達成目標と目標達成の方策 ※達成度 4：8割以上、3：6割以上、2：4割以上、1：4割未満

	達成目標	目標達成の方策	達成状況	到達度
国語	1. 授業の質の向上 2. 新しい入試への対応 3. 入試作問等業務	1. 観点別評価を基準に従って行い、授業とリンクさせる。相互授業見学や、校外の研究授業への参加を勧める。新課程の教材研究を進める。 2. 説明会等へ積極的に参加し、得た情報を教科内で共有する。新入試を見据えた授業展開を意識する。 2. 会議で意見・情報交換を行いながら、丁寧に検討を進める。	1. 観点別評価の根拠を明確にし、周知することができた。 2. 新課程共通テストの情報を収集し、対策を検討中である。 3. 無事高校入試を終えることができたが、教員数に対して作問数が多いため負担が増加している。	3
地公社	1. 科・学年・コース等の特性に応じた指導 2. 社会の「生きた授業」の構築	1. 生徒の現状について担任等と密に連絡を取り、指導を進めていく。 2. 校外の研究会等に参加するなどして、積極的に情報収集を図る。	1. 特に欠席しがちな生徒について授業のフォローを行うなど配慮した。 2. 情報収集については成果が上がっているが、授業への活用については今後の課題である。	3
数学	1. 基礎的・基本的な知識の習得と技能の習熟 2. 習得した知識・技能を的確に活用する能力を伸ばす。 3. 数学的な見方や考え方のよさを認識できるようにする。	1. 生徒の実態に応じた学習内容の精査。 2. 副教材を利用し、演習を通して自ら学び課題解決する力を養う。 3. 「わかる授業」「充実した授業」となるように、各教員が研鑽を積む(相互授業参観、自己研修、校外の説明会や研究会への参加)。	1. クラスの実情に合わせ、工夫して授業を進められた。 2. 単元テストや小テストを頻繁に行い、生徒の理解度を踏まえ、授業に活かした。 3. 研修に参加する教員の数は少なく、今後の課題である。	3

理科	<ol style="list-style-type: none"> 1. 基本的な知識の習得と技能の習熟 2. 主体的な学習の視点からの授業改善 3. 新しい大学入試に対応できる力の育成 	<ol style="list-style-type: none"> 1. 個々の生徒の実態に合わせ、担任と連絡をとりながら、学習展開を進めていく。 2. 思考力の向上を促す実験・生徒の関心度の高いIC教材等を利用し、相互授業参観を通じ研鑽を積む。 3. 自己研修・校外の説明会・研修会への参加を行い、情報を教科内で共有していく。 	<ol style="list-style-type: none"> 1. 小テストで生徒の実態を把握して個別指導を行うことで、基礎基本の習得目標を達成することができた。 2. 授業アンケートの結果から、生徒の興味のある教材・内容に注目し授業展開した結果、全体的に成績が向上した。 3. 入試問題の傾向について分析・検討した結果、来年度の授業展開に活かす課題を見つめられた。 	3
英語	<ol style="list-style-type: none"> 1. 自学を促し能動的に取り組めるような授業を工夫する。 2. 学力差を配慮したわかりやすい授業展開 3. 4技能のバランスを意識した授業展開 	<ol style="list-style-type: none"> 1. 授業を工夫しながら行い英語に対する興味関心を持たせ、自主的に宿題に取り組み家庭学習の習慣をつけさせ、学力の向上につなげる。 2. ティームティーチングの授業を増やし、学力の違いに対応できる指導を行う。 3. 暗唱テストやリスニングテスト、さらにはグループ発表やグループディスカッションなどの活動を取り入れ、生徒のレベルに合った活動を取り入れる。 	<ol style="list-style-type: none"> 1. クラスの状況に応じ、生徒のレベルにあわせた授業を行った。 2. ティームティーチングを有効に活用し、きめ細やかな指導ができた。 3. グループ学習やリーディング・リスニングを行うよう心がけたが、クラスによって差が生じてしまった。 	3
保健体育	<ol style="list-style-type: none"> 1. 授業中の安全管理と規律ある授業 2. 施設・設備のこまめな点検や修繕 3. 種目選択を多く取り入れる。 	<ol style="list-style-type: none"> 1. 根気強く、できるまで指導する。 2. 空き時間の有効活用。 3. 苦手意識のある種目をさけ、積極的に取り組める状況をつくる。 	<ol style="list-style-type: none"> 1. 持久走で見学者が増加傾向にあったため、見学ノートで対応した。 2. こまめな点検や修繕を心がけた。 3. 学習指導要領に則り、選択制にしている。 	3
芸術	<ol style="list-style-type: none"> 1. 生徒の基本的な生活習慣をより高める。 	<ol style="list-style-type: none"> 1. 科の申し合わせ事項（重点目標）に留意し、共通理解を深めると共に、歩調を保つ。 	<ol style="list-style-type: none"> 1. 普通科においては、生活指導面に粘り強い指導が必要であり、今後も課題を残す。付属中は生活習慣、六年制は自学自習に重点をおき、生徒は主体的に行動している。 	3
家庭	<ol style="list-style-type: none"> 1. よりよい生活を実現する実践的な態度を養う。 2. 生徒の実態に応じた授業展開 	<ol style="list-style-type: none"> 1. 体験的な学習活動を通して、基礎的・基本的な知識と技術を習得させる 2. 評価につながるようにクラスの状態に応じた授業の進め方を工夫し、授業改善に努める 	<ol style="list-style-type: none"> 1. 家庭生活に関心を持ち、課題解決に向けて実践しようとする姿勢がうかがえるようになった。 2. 生徒の実態に合わせて授業展開を考え、授業をすすめることができた。 	3
情報	<ol style="list-style-type: none"> 1. 情報モラルやマナーを身につけさせる。 2. 情報リテラシーを身につけさせる。 	<ol style="list-style-type: none"> 1. SKYMENUを活用して幅広い内容を指導する。 2. PCを積極的に活用し問題解決能力を身につける。 	<ol style="list-style-type: none"> 1. PC（特にキーボード）に慣れることに時間を要した。基礎学力と並行して情報活用能力を高められるよう努めた。 	3
キャリア	<ol style="list-style-type: none"> 1. 学年・コースに応じた指導を心掛けると共に、生徒の希望進路の状況把握に努める。 	<ol style="list-style-type: none"> 1. 個別面談を重点とし、個々の生徒の希望進路について、担任・学年団との連携を図りつつ的確に把握し、指導を進める。 	<ol style="list-style-type: none"> 1. より良い進路の実現に向けて取り組んだ。生徒の最新希望進路を把握するため個別面談を強化し、担任との連携を密にした。 	4

8. 各分掌等の達成目標と目標達成の方策 ※達成度 4 : 8割以上、3 : 6割以上、2 : 4割以上、1 : 4割未満

	達成目標	目標達成の方策	達成状況	達成度
総務部	1. 総務部各業務の効率的な管理・運営を目指す。 2. P T A活動の活性化の手助けを円滑に行う。	1. 総務の業務内容全般を把握し、全業務のマニュアル化をすすめる。 2. P T A関係の業務はできるだけ早めに開始し、余裕を持たせる。	1. 行事・業務が終わるごとに、共有フォルダーに整理した形で記録を残した。分掌内の教員の協力が不可欠だが、これからの課題でもある。 2. P T A活動については、制約が取れたため多様な活動が可能ではなかったが、途切れてしまったつながりを元に戻すのはかなり困難であった。	3
教務部	1. 高校新課程の成績処理・評価方法を確立し、高校旧課程、中学校の3通りの方法を周知徹底する。 2. ミスのない円滑な業務の遂行	1. 高校新課程（高1・2）の成績処理システムについて、早い時期に担当者以外の教員も参加する説明会を開く。高校旧課程や中学校の成績処理方法も確認し、混乱を防ぐようにする。また、考査以外の評価について、各教科で出された評価方法に教科内での統一を図る。 2. 複数の担当者が業務に携わることで、チェック機能を強化してミスをなくし、各業務内容を処理できる教員を増やす。	1. 5月17日(水)に高1・高2の成績処理説明会を開いた。さらに不明な点等があれば、その都度質問してもらったようにした。 2. 担当者一人で業務を処理する傾向があるため部内で協力しあうよう指示したが、動員する教員を増やせず改善には至らなかった。	3
生徒指導部	1. 校訓を柱とした生徒指導 ①師弟親愛・・・信頼される生徒指導 ②堅実明朗・・・主体性を育む生徒指導 ③勤労実践・・・率先垂範の生徒指導 2. 充実した学校の創造（前向きな発言をする） ①人間関係構築 ②校内整美 ③主体的活動 ④事故防止 ⑤マナー向上	1. 校訓を柱とした生徒指導 ①生徒・保護者・教職員が三位一体となり、生徒を目標達成に向け導く。 ②人間教育を重視し高水生としてプライドを持てるよう導く。 ③教師が手本となり、社会に貢献できる人物となるよう生徒を導く。 2. 充実した学校の創造（前向きな発言をする） ①各種アンケートの充実、挨拶の励行 ②地域・学校貢献、全校一斉清掃日設定、教職員自主清掃 ③行事の主体的参加、ボランティア活動の積極参加、生徒会活動充実 ④交通事故ゼロ、交通安全教室の実施、交通安全週間の設置 ⑤マナー研修の充実、登下校指導の実施、外部通報件数の減少	1. ①担任を中心として各学年団が、細かく保護者と連絡を取り連携を深めた。 ②各種行事など生徒会を中心に主体的に活動した。 ③教師が手本となり清掃活動などを行った。 2. ①人間関係に悩む生徒が相変わらず多かったため、細やかな声かけを行った。 ②積極的に清掃活動を行った。 ③生徒会を中心に主体的な活動を促した。 ④交通事故減少に向け、早朝交通指導を徹底した。 ⑤一部マナー面で心配な生徒がいるが、あいさつについては全体的に良くなった。	3
	いじめ防止	1. いじめの未然防止と早期発見、早期解決に学校全体で取り組む。	1. 学期ごとにいじめアンケートを実施する。集約された情報については、いじめ対策委員会で共有し、迅速かつ組織的に対応する。	3

進路指導部	<ol style="list-style-type: none"> 1. 共通理解を促す会議の充実 2. 情報収集と提供 3. 保護者進路説明会・生徒進路研修会の充実 4. キャリア教育の研究 5. ICT化の導入 	<ol style="list-style-type: none"> 1. <ol style="list-style-type: none"> ①高3進路指導連絡会議を早期に開催し、指導の在り方を共有し、ミスマッチを回避する体制の構築を図る。 ②推薦会議（公募・指定校）・応募先検討会議に際し、生徒の状況を十分に把握の上、的確な進行に努める。 ③模試検討会議を開催し、個人成績の分析及び志望動向を確認し、実態の把握に努める。 ④出願報告会議では生徒の状況・入試動向の把握を踏まえ、次年度に向けた指導の連続性も考慮しつつ、充実を図る。 2. 共通テスト・新課程入試・求人状況など関連業者とも連携して情報収集に取り組む。また、上級学校の教育力や就職力の情報を収集し、共有化を図る。情報の提供方法について構築に努める。 3. <ol style="list-style-type: none"> ①1・2年生の保護者には、進路選択の指針を提示し、3年生の保護者には年間スケジュールの周知を図る。各学年の保護者に伝えるべきことを明確にする。なお、就職関係（11月）の説明会については出席を促す。 ②随時目的・時期・内容などを点検する。生徒アンケートなどで満足度を把握し、改善の参考にする。 4. <ol style="list-style-type: none"> ①キャリア形成の一端を担う進路指導という観点から関係教員による面談の実施を促し、進路選択を模索させ、生徒の状況把握を進める。 ②総合的な探究の時間などをキャリア教育と連動させ、各科・学年で年間計画を立案する。探究活動を系統的・組織的に実施し、プレゼンテーション能力の向上に加え、考察力・分析力の深化を図る。 5. 「進路希望調査」・「共通テスト統計」・「業者追跡調査」・「進路調査」などの統計処理及び「進路情報」・「求人票一覧」・「指定校一覧」などの情報提供に関して、ICTを活用し、データの一括管理を推進する。 	<ol style="list-style-type: none"> 1. 概ね達成できたが、高3担任への連絡などで説明不十分な面が見受けられた。なお、模試検討会議については、多様な入試形態を踏まえ、内容の再構築が課題である。 2. 情報の提供に努めている。入試研究会・学校説明会などの案内文書回覧実施。来校者からの情報については、今年度からドライブ上で共有を図っている。 3. 予定通り実施し、啓蒙に努めた。特に就職関係保護者説明会に関しては、保護者を含め、趣旨の共有を図り、担任と連携の上、出席を促す取り組みが必要である。 4. 六年制普通科・普通科ともに科を中心に立案し、キャリアパスポートを活用しつつ、計画通りに進んでいる。総合型・推薦型選抜に関連付けた探究活動の在り方を課題として提起していきたい。 5. 「進路希望調査」については、ドライブ上で実施。また「進路調査」についてはデータの一元化に取り組んだ。ICTの導入により業務のスマート化が図られた。データ取得の方法・処理についてはICT担当がシステムの更新に努めている。 	3
保健部	<ol style="list-style-type: none"> 1. 生徒の健康・安全を最優先に考え、保健指導や怪我の防止に努める。 2. 新型コロナウイルス感染症の位置付けの変化（規制緩和）に伴う学校生活（含む学校行事）での健康の保持増進 	<ol style="list-style-type: none"> 1. 健康診断・調査を基に健康指導を行うとともに、怪我や緊急時の対応を迅速かつ的確に行う。 2. コロナ禍以前の生活に戻しつつ、集団生活における感染症予防の啓蒙に努める。 	<ol style="list-style-type: none"> 1. 教職員と生徒の協力のおかげで滞りなく遂行できた。 2. 周囲の感染状況をみながら状況に応じた対応ができた。 	4

事務室	1. 業務の効率化 2. コストの削減 3. 職員のモチベーションの向上	1. 事務処理に限らず、業務の効率化が生む最大のメリットは仕事の質の向上であるため、常に向上心を持ち続ける。 2. O A機器等の活用を加速させ、単位時間当たりの力量を強化する。ひいては消耗品等の消費が抑えられ、支出の削減につながる。 3. 過密スケジュールによる慢性的な業務の進行や長時間の労働は、目標達成に支障をきたす。職場環境を整えることで、動機づけとする。	1. 業務の質を高めるため、職員間の連携から効率化を図った。 2. 経費削減のため、ペーパーレス化を行った。 3. 事務職員間で課題を共有し、問題点について解決策を検討することで、モチベーションの向上に努めた。	3
-----	--	--	---	---

9. 学校運営の達成目標と目標達成の方策 ※達成度 4：8割以上、3：6割以上、2：4割以上、1：4割未満

		達成目標	目標達成の方策	達成状況	達成度
特別活動		1. 生徒の自主性を大切にしながら、積極的に活動に取り組むことができる学校行事にする。 2. 在学期間を見通したホームルーム計画により運営する。 3. 統廃合した部活動、新設した同好会を活発にすることで、生徒の経験値を高める。	1. 学校行事はホームルームと生徒会が連携しながら、早い段階で計画案を練らせ準備を行う。 2. 将来の展望を教職員間で共有し、クラブ・同好会活動の活性化を図る。	1・2. 学校行事はほぼ当初計画通り実施できた。 3. 部活動、同好会活動は、活発に行われた。	4
学校運営		1. 普通科、六年制普通科、附属中それぞれの特色・魅力を活かし伸ばすとともに、地域へ向けて情報発信に努める。 2. 授業・特別活動・部活動等の各種活動を通じて、生徒の自己肯定感を高める。	1. 学校の特色・魅力をPRしていくために、ホームページ等を通じて学校の情報が的確かつ有効に伝わるよう、情報発信の時期・内容・方法を工夫する。 2. 生徒の自主性を大切にしながら、成功体験や達成感を味わえるよう、個々の活動にどう取り組ませるかを工夫するとともに、「ほめる」言葉掛けを実践する。	1. ホームページの見直しを実施。学年・クラス通信を学期に1回は出すようにし、情報発信を工夫した。 2. 様々な生徒対応が求められ改善が必要であり、次年度へ向けて検討課題。	3
業務改善	学校の組織等	1. ICTの活用により、組織的、体系的な業務の見直しと改善を図る。	1. ①校務分掌の役割分担等の見直しと改善を図る。 ②校務分掌長どうしの業務内容の共有と協働に努める。	1. 新しい分担の徹底、協働に時間を要したが、ある程度改善することができた。	3
	日常的な業務	1. ICTの活用による業務の効率化とOJT（オンザジョブトレーニング）の推進を図る。	1. ①ペーパーレス化と業務の効率化を一体的に進めることによって、仕事の全体量低減を図る。 ②校内LANの活用により、教職員間の情報の共有・連携・協働を図る。	1. 全体的にはかなり改善したが、担当者の負担が増加しているように感じる。	3
	勤務状況	1. 勤務時間適正化と時間外業務時間の縮減を推進する 2. 教職員の心身の健康増進を図る。	1. ①年休・代休等の休暇が取得しやすい職場環境づくりに努める。 ②時間外業務時間縮減を意識して、日常業務の効率化を推進する。 2. 積極的な働き掛けにより、健康診断における要精密検査の受診率の向上を図る。	1. 時間外業務軽減は意識し、許可した時間外業務は回復を徹底した。 2. 校長面談等を活用し、積極的な働きかけを行った。	3

10. 本年度の取り組みの成果と課題

【成果】	<ol style="list-style-type: none"> 1. 授業時間数確保に努めたことにより、学力の定着に繋げることができたと感じている。 2. 休み時間の教室巡回などで生徒の状態を把握することにより、生徒指導上のトラブルが発生した時は迅速に対応することができた。 3. 懸案事項だったホームページ見直しを実施。また、学年・クラス通信の発行等により情報発信が改善できたと感じている。 4. 校舎と校内の施設・設備に対する修繕、人目の付きにくい場所への防犯カメラ設置により、生徒の安心安全を強化することができた。 5. 勤務超過への回復措置を周知徹底し、働き方改革を進めた。 6. ICTの活用により、校務分掌における効率化が進んでいる。さらに次年度から校務支援システムを導入することが決定した。 7. 姉妹校との交換留学を再開。円安、物価高騰の中、オーストラリアへの修学旅行も実施できたことは大きな成果である。 8. 全国大会出場や県内大会優勝・上位入賞等、生徒の努力と教員の指導の成果が結果としてあらわれた。 9. 授業時間数不足生徒への補講を実施し、進級・卒業への可能性を繋げることができた。
【課題】	<ol style="list-style-type: none"> 1. 学校活性化を図る必要があるが、教員に対する共通理解が得られにくくスピード感をもって進められない。 2. 起立性調節障害や支援を要する生徒等の増加に対し、個に対応した指導（生活・学習指導等）や対策が十分ではない。 3. 授業時間数不足生徒への補講が教員の負担増に繋がっている。 4. 経験年数の長い教員の退職により、マニュアル化されていなかった校務が滞り、業務に支障をきたすことがある。 5. 職員室が2つに分かれていることがタイムリーかつ円滑なコミュニケーションを妨げている。新教育課程における教科指導法や新しい取り組みへの情報共有が困難になっている。 6. 建学の精神を礎に、未来を生きる子どもたちの教育を推進するにあたって、今以上の授業改善が必要である。